

## 避難に関する知識を身につけよう

災害が発生し、家屋内にとどまることが危険な状態になった場合は、落ち着いてすばやく避難する必要があります。その際には、子どもや高齢者などの災害時要援護者の保護を念頭に置き、近所の一人暮らし高齢者世帯などにも声をかけるなど近隣で協力することが大切です。

### 避難に対する基本的な考え方

#### 避難は自ら判断を

災害が迫ったとき、置かれた状況は一人ひとり違います。それぞれが自ら判断し、適切な行動を取らなければなりません。



#### 命を守る避難行動を

危険な状況の中での避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険が切迫している場合は、指定された避難場所への移動 **① 水平避難** だけでなく、近隣のより安全な場所、より安全な建物等へ避難するなど、命を守る避難行動をとることが重要です。



- 夜間や急激な降雨で避難路上の危険箇所がわかりにくい
- ひざ上まで浸水している (50cm以上)
- 浸水は20cm程度だが、水の流れる速度が速い
- 浸水は10cm程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある

- ② 垂直避難** 屋外への移動は危険です。浸水による建物倒壊の危険がないと判断される場合には、自宅や近隣建物の2階以上 (津波の場合は3階以上) へ緊急的に一時避難し、救助を待つことも検討してください

### 避難に関する3つの情報

#### 1 避難準備・高齢者等避難開始

- 避難勧告や避難指示 (緊急) を発令することが予想される状況です。
- 避難に時間を要する人 (ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等) とその支援者は避難を開始します。
- その他の人は、非常持出品の用意など避難の準備を整えます。



#### 2 避難勧告

- 災害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まった状況です。
- 速やかに避難場所へ避難します。
- 外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難します。



#### 3 避難指示 (緊急)

- 災害が発生するなど状況がさらに悪化し、人的被害の危険性が非常に高まった状況です。
- まだ避難していない人は、緊急に避難場所へ避難します。
- 外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難します。



→上記「命を守る避難行動を」参照

### 安全に避難するために

避難勧告が出されたら、すみやかに避難しましょう。「まだ、大丈夫」と自己判断せず、早め早めに対応することが命を守るポイントです。

#### ① 事前に準備を

ふだんから避難場所までの安全な経路などを確認しておきましょう。



#### ② 持ち物は最小限に

荷物は背負い、両手が使えようようにしましょう。

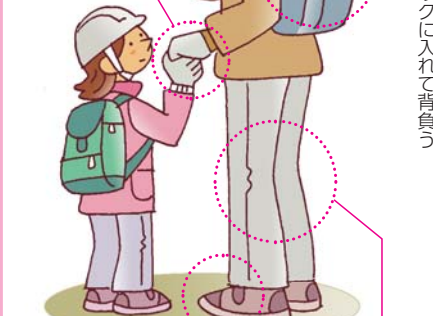


#### ③ 動きやすく安全な服装で

ヘルメットや防災ずきんで頭を保護し、靴ひもで締められる運動靴を。裸足・長靴は厳禁です。

ヘルメットや防災ずきんをかぶる (なければ帽子)

非常持出品はリュックサックに入れて背負う (両手が使えないように)



長袖・長ズボンを着用。材質は燃えにくいもの (化繊より木綿製品) を

#### ④ 車は使わない

車は数10cmの浸水で浮いてしまいます。他の避難者や緊急車両のさまたげにもなり、危険です。



#### ⑤ 隣近所で声を掛け合って

避難は2人以上で。隣近所を誘ってロープで結び、集団で避難しましょう。高齢者や病人などは背負い、子どもには浮き袋を付けさせて、安全を確認しましょう。



#### ⑥ 足元に注意を

水面下には、マンホールや側溝などの危険な場所が。長い棒をつえ代わりして確認しながら歩きましょう。



#### ⑦ 深さに注意

歩行可能な水深は約50cm。水の流れが速い場合は20cm程度でも危険です。



#### ⑧ 避難所では気象情報に注意を

避難場所では相互に協力を。被害の状況や今後の気象状況を確認しましょう。



### 避難の心得 10か条 ひこぼしとあかるきひ (なん)

- ひ** 火元確認! ガスの元栓・電気のブレーカー
- こ** 子どもや高齢者の手を握って避難
- ぼ** 防災カードを身に着ける
- し** 集合場所へは近所の人たちと集団で
- と** 徒歩で避難だ! 車は厳禁!
- あ** 頭を保護するヘルメットに防災ずきん
- か** 家族には連絡メモの活用を
- る** ルート設定! 危険な道や塀のそば、川べりなどは必ず避ける
- き** 極力荷物は最小限に
- ひ** 避難は指定された避難場所へ